

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成30年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかつ

将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち(施策1,2,3) 事業数: 26

施策1 食への理解の促進 事業数: 15

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成30年度			令和元年度	開始/終了年度 (計画期間内)
				平成30年度	令和元年度		目標	実績	評価	目標	
1	食と花の推進課	料理教室「シェフの日」	生産者・料理人・消費者が交流し、食材のおいしさ等を分かち合い、食への理解を深めることを目的に、市内の飲食店が市内の生産者が作った食材を使用して実施する料理教室を開催します。	飲食店での料理教室+生産者の食材トークの組み合わせで実施	/	実施店舗数	10店舗	5店舗	C	/	R元年廃止
2	食と花の推進課	料理人×生産者マッチングツアー	販路拡大を目指す生産者と市産農産物の活用を図りたい料理人のマッチングを図るため、料理人を対象とした圃場見学ツアーを実施します。	料理人が生産者の下を訪れるツアーを実施	→	参加者アンケート「今後このような料理人と農業者の交流イベントがあったら参加したいか」のうち「参加したい」の割合	80%以上	94%	A	80%	H30開始
3	食と花の推進課	農家の日	生産者・料理人・消費者が交流し、食材のおいしさ等を分かち合い、食への理解を深めることを目的に、生産者のもとを訪れ、地域の暮らしと農業、食文化を学ぶ、料理教室を含んだツアーを開催します。	法人・団体等と連携して実施	/	ツアー企画・催行数	3ツアー	3ツアー	B	/	H29開始・H30休止
4	食と花の推進課	若手料理人の育成支援	本市の食のレベルアップを図るため、料理人の技術発表の場や本市の食文化を理解し、生産者と交流する機会を創出するなど若手料理人の育成を支援します。	1.若手料理人コンテストの実施 2.研修支援補助金制度の実施	1.[新潟市若手料理人コンテスト2019]の実施 2.研修支援補助金制度の実施	1.コンテスト参加者数 2.補助金交付申請件数	1. 30名 2. 3件	1. 49名 2. 2名	B	1. 60名 2. 4名	
5	学校支援課、食と花の推進課	新潟発わくわく教育ファーム推進事業『アグリ・スタディ・プログラム』の推進	本市の誇る農業や食に対する理解を深め、ふるさとへの愛情や誇り、生きる力を培うとともに、農業を活性化するため、学習と農業体験を結び付けた体験プログラムを実施します。	→	→	1.「アグリ・スタディ・プログラム」に基づく学習を実施している学校の割合 2.アグリ・スタディ・プログラム評価・サポート委員会によるプログラムの検証率	1. 100% 2. 75%	1. 100% 2. 75%	B	1. 100% 2. 75%	
6	農村整備・水産課	浜で遊ぼうin角田・南浜、大河の感謝祭in信濃川	地元水産物の紹介と魚食普及のため、地引網体験・漁船乗船体験などを開催します。また、信濃川で捕れるサケなどを通じて川の恵みに感謝するため、サケのつかみどり・採卵実演などを実施します。	→	→	参加者数	浜で遊ぼうin角田廃止 浜で遊ぼうin南浜2500人 大河の感謝祭350人	浜で遊ぼうin南浜2000人 大河の感謝祭500人	B	浜で遊ぼうin南浜2500人 大河の感謝祭350人	
7	食と花の推進課	地産地消推進事業	地場産食材を積極的に販売・活用し、PRする小売店・飲食店などを支援するため「地産地消推進の店」を認定します。また、地場産食材の良さを知らしめ「地産地消推進の店」の利用促進を図るキャンペーンを実施します。	・地産地消推進の店の認定 ・地産地消キャンペーンの実施(休止)	・地産地消推進の店の認定 ・地産地消キャンペーンの実施	地産地消推進の店新規認定数(店)	15件	6件	C	15件	
8	食と花の推進課	料理教室等	本市で生産される米や食材を活かした日本型食生活を柱とする「にいがた流 食生活」を推進するため、季節の料理教室を実施します。	→	(指定管理による運営に移行)	拠点施設における食育の実施を促す事業の実施回数	100回	156回	A	100回	
9	食と花の推進課	食育マスター制度	地域での食育活動を広げるため、食育に関する優れた知識、技術、技能及び経験を有する人材を「新潟市食育マスター」として登録し、学校・市民団体などの要請に応じて、食育活動の指導者として派遣します。	→	紹介による制度に変更し、継続して実施	食育マスター派遣回数	180回	137回	B	180回	
10	西区農政商工課	食と農の学校(親子農業体験教室)	小学生の親子を対象に新潟大学と連携して、農業体験や調理実習、農作物や食育に関する講座を開催し、農業と食への関心を高め、食育を推進する。	→	/	親子農業体験教室への参加組数	15組参加	14組参加	B	/	R1廃止
11	西区農政商工課	食と農の学校(入門コース)	一般社会人などを対象に、生産者の圃場での農業体験教室を通じて、都市部住民の農への理解を深める。 ・入門コース(全6回)	見直し後の事業実施	事業実施	農業体験教室の実施回数	全6回実施	全6回実施(1コース)	B	全6回実施(1コース)	
12	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などをいもジェンヌ農工商連携協議会を中心に推進します。	・生産拡大に係る取組 ・消費拡大に係る取組 ・販路拡大に係る取組 ・商品等の研究開発に係る取組 ・地域活性化に係る取組	・生産拡大に係る取組 ・消費拡大に係る取組 ・販路拡大に係る取組 ・商品等の研究開発に係る取組 ・地域活性化に係る取組	いもジェンヌベスト取扱件数及び量	作付面積23.0ha	作付面積21.0ha	B	作付面積21.0ha	
13	西区農政商工課	小学校との食育連携	子供たちへの食育と地場産農産物の消費拡大を推進するため、区内の希望小学校が収穫体験、料理教室、生産者講話の3つのメニューから希望講座を選択し、授業を実施してもらう。	→	3つのメニューから、各校が希望するいずれか1つの講座を実施	実施希望全校での実施	実施希望全校での実施	希望全校で実施延べ25校	B	実施希望全校での実施	H29開始
14	文化創造推進課	水と土の芸術祭2018	新潟の豊かな暮らし文化の磨き上げと発信により、本市の存在感を高めるとともに、水と土の文化創造都市を前進させるため、新潟開港150周年記念事業の主要事業として「水と土の芸術祭2018」を開催する。	水と土の芸術祭2018開催	/	参加者数	777,000人	812,387人	A	/	H30開始・廃止
15	鳥屋野地区公民館	新潟いいね！～ニイガタ美味しいものぞんまい～	転勤、転入者を対象に、人とのつながりを作ってもらうことを目的として、新潟市の代表的な「食」をテーマに、地域の方から作り方を教えてもらったり、見学したり、体験したりしながら、新潟市のことを紹介する講座として開催する。	全3回 ・笹団子づくり・見どころ紹介 ・みそ蔵・酒蔵を訪ねて ・枝豆収穫体験	全2回を2会期(夏編・秋編) ・笹団子づくり ・見どころ紹介 ・枝豆収穫体験(夏編) いも(いもジェンヌ)掘り体験(秋編)	参加申込組数	10組	7組	B	各期10組	H30開始

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成30年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかつ

施 策2 食を生かした健康づくり											事業数:	4
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成30年度			令和元年度	開始/終了年度	
				平成30年度	令和元年度		目標	実績	評価	目標		
16	保健所健康増進課	食生活改善推進委員養成講座・研修会	生涯における健康づくり活動を、食を通じて地域で推進している食の健康ボランティアである「食生活改善推進委員」を養成・育成するため、養成講座および研修会を実施します。	→	→	食育の推進に関わるボランティアの数	480人	473人	C	480人		
17	ニューフードパルレー特区課	新潟市健幸づくり応援食品認定制度(新潟市健幸づくり応援食品認定事業)	市民の健康維持・増進および市内食品のブランド化、高付加価値化の実現を図るため、機能性に関する科学的な報告がある成分を含む食品や、健康づくりに配慮されている食品に対し、市独自の認定を付与します。	→		機能性食品認定件数	2件	5件	A	2件		
18	農業活性化研究センター	農産物高付加価値化推進事業	農業者の所得向上や農業振興を目的に、付加価値の高い商品開発を進めるため、農産物に含まれる様々な機能性成分や有用形質に着目し、科学的根拠を裏付けとした調査研究を行います。			地元産品の成分分析・調査、製品化支援	6件	6件	B	4件		
19	保健所健康増進課	ちよいしおプロジェクト	減塩と野菜摂取の普及・啓発の実施。市民、関係機関への周知、学校における減塩教育、飲食店・販売店と連携した取り組みを実施。		→	減塩を意識しているし、できていると思う者の割合(できている、だいたいできている)	30%	11.40%	C	51% (R元年度より指標のとり方を変更。H30年度現状値48.2%)	H30開始	

施 策3 食文化の次世代への継承											事業数:	7
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成30年度			令和元年度	開始/終了年度	
				平成30年度	令和元年度		目標	実績	評価	目標		
20	食と花の推進課	地場産学校給食推進事業	学校給食における地場農産物の利用拡大とともに食育の推進を図るため、米飯給食において地場産の環境保全型栽培コンヒカリ100%を供給し経費の一部を助成します。また、地域の実情に応じたモデル事業を実施します。	→		学校給食における地場農産物(野菜・果物・きのこ)の利用割合	28.0%	25.9%	B	28.5%		
21	食と花の推進課	レシピ集の活用	郷土料理や行事食を含む新潟の家庭料理を次の世代へ伝えるため、料理教室で使用したレシピを抜粋し、まとめた「伝えたいにいがたの味」などのレシピ集を活用します。	→	→	レシピを活用した取り組み	10回	10回	B	15回		
22	農業活性化研究センター	農業活性化研究センターにおける研究(伝統野菜の維持・保存)	生産現場における栽培技術上の課題解決に向け、野菜・花き・果樹の栽培実証試験などを実施し、その中でナスやカブなどの伝統野菜の維持・保存を行うとともに、活用に向けた調査・研究を進めます。	→	→	大学等との共同研究数	5件	5件	B	5件		
23	食と花の推進課	料理教室等【再掲】	本市で生産される米や食材を活かした日本型食生活を柱とする「にいがた流 食生活」を推進するため、季節の料理教室を実施します。	→	(指定管理による運営に移行)	拠点施設における食育の実施を促す事業の実施回数	100回	156回	A	100回		
24	西区農政商工課	食と農の学校(親子農業体験教室)【再掲】	小学生の親子を対象に新潟大学と連携して、農業体験や調理実習、農作物や食育に関する講座を開催し、農業と食への関心を高め、食育を推進する。	→		親子農業体験教室への参加組数	15組参加	14組参加	B		R1廃止	
25	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援【再掲】	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などをいもジェンヌ農工商連携協議会を中心に推進します。			いもジェンヌペースト取扱件数及び量	作付面積23.0ha	作付面積21.0ha	B	作付面積21.0ha		
26	西区農政商工課	小学校との食育連携【再掲】	子供たちへの食育と地場産農産物の消費拡大を推進するため、区内の希望小学校が収穫体験、料理教室、生産者講話の3つのメニューから希望講座を選択し、授業を実施してもらう。	→	3つのメニューから、各校が希望するいずれか1つの講座を実施	実施希望全校での実施	実施希望全校での実施	希望全校で実施延べ25校	B	実施希望全校での実施	H29開始	

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成30年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかつ

将来像2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち(施策4,5,6,7)											事業数:	26
施策4 地域の魅力の向上											事業数:	11
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成30年度			令和元年度	開始/終了年度	
				平成30年度	令和元年度		目標	実績	評価	目標		
27	北区産業振興課	キテ・ミテ・キタクとまとキャンペーン	北区の豊栄地区で生産されている「豊栄トマト(品種:桃太郎)」と濁川地区で生産されている「濁川トマト(品種:麗容)」の消費拡大を目的に、ラジオやホームページを活用したPR活動を行います。	見直し・拡充	→	広報媒体での放送・掲載回数	リーフレットの作成、ラジオ広報6回	リーフレットの作成、ラジオ広報6回	A	ポスター・ポップの作成、ラジオ広報6回		
28	中央区地域課	発酵食産業PR事業	伝統産業の継承と地域の魅力向上を図るため、中央区で古くから発展してきた酒、みそ、しょう油などの伝統的な発酵食産業の特徴や歴史を、体験教室などを通して広くPRします。	・見直しによる新たな事業(地域と連携した事業)の実施 ・H30年度もって事業終了	/	・料理教室や体験教室の開催 ・発酵食品PR冊子の作成 ・次年度以降の新事業展開を検討	体験教室:2回開催	体験教室:2回開催	B	/	H30年度終了	
29	秋葉区産業振興課	満願寺稲架木並木を活用した観光交流事業	交流人口の拡大および観光資源としての景観をつくるため、本市の指定文化財である秋葉区満願寺稲架木並木を舞台に、春には手植えによる田植え体験、秋には手刈りによる稲刈りおよび稲架掛け体験イベントを開催します。	・田植え体験イベントの開催 ・稲刈り、はさかけイベントの開催 ・稲刈り、はさかけイベントに合わせた体験ツアーの実施 ・事業の見直し・拡充を検討	/	・田植え体験イベントの開催 ・稲刈り、はさかけイベントの開催 ・区およびJAPRブース設置による情報発信、イベントPR写真募集 ・事業およびはさかけ米の活用について見直しを検討	稲刈り、はさかけイベント参加者数	240名	176名	B	200名	
30	農村整備・水産課	浜で遊ぼうin角田・南浜、大河の感謝祭in信濃川【再掲】	地元水産物の紹介と魚食普及のため、地引網体験・漁船乗船体験などを開催します。また、信濃川で捕れるサケなどを通じて川の恵みに感謝するため、サケのつかみどり・採卵実演などを実施します。	→	→	参加者数	浜で遊ぼうin角田 廃止 浜で遊ぼうin南浜 2500人 大河の感謝祭 350人	浜で遊ぼうin南浜 2000人 大河の感謝祭 500人	B	浜で遊ぼうin南浜 2500人 大河の感謝祭 350人		
31	ニューフードバレー特区課	農家レストランの設置	国家戦略特区の規制緩和を活用し、農用地区域に農家レストランを設置する。	→	/	農家レストラン設置数(累計)	4店舗	3店舗	C	4店舗		
32	食と花の推進課	農業体験観光ツアー	農村と都市が近接する新潟市の特性を生かし、農業体験・食・観光を組み合わせたツアーを開催し、主に首都圏からの交流人口の拡大を目指すとともに、生産現場での生産者との交流を通じ、生産者と消費者の相互の理解促進、農業・農村の活性化を図る。	→	→	H30年度まで:ツアー参加者数 R1年度以降:農林漁業・自然体験の受入団体数	30人	ツアー参加者数:30人 受入団体数:18団体	B	20団体		
33	北区産業振興課	収穫体験農園	北区で生産される農産物の収穫体験を通じ、生産者と消費者の交流が生まれることで、北区の農業の活性化と地域に根差した食育の推進を図ることを目的とする。	→	→	申込者数	定員を上回る(トマト:50人、枝豆:50人)	トマト:定員を上回った(281名) 枝豆:定員を下回った(49名)	B	定員を上回る(50人)		
34	西区農政商工課	農業まつり	西区の特産品である「新潟すいか」「大根」等の収穫期にあわせ農業まつりを開催し、地場産農産物の周知と消費拡大を図る。	→	/	すいかまつり7/6 ・茶豆まつり8/中旬 ・秋の収穫祭10/中旬	すいかまつり、新米・大根・ねぎの収穫祭の来場者数	11,500人	8,200人	B	農業まつり3回開催	
35	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援【再掲】	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などをいもジェンヌ農工商連携協議会を中心に推進します。	・生産拡大に係る取組 ・消費拡大に係る取組 ・販路拡大に係る取組 ・商品等の研究開発に係る取組 ・地域活性化に係る取組	/	・生産拡大に係る取組 ・消費拡大に係る取組 ・販路拡大に係る取組 ・商品等の研究開発に係る取組 ・地域活性化に係る取組	いもジェンヌベスト取扱件数及び量	作付面積23.0ha	作付面積21.0ha	B	作付面積21.0ha	
36	食と花の推進課	新潟の食と花のPR事業	ねぎをテーマに全国の産地が一堂に会しPRを行う、全国ねぎサミット2018inにいがたの開催や、地産地消推進店の認定、新潟市食と花の銘産品を中心とした本市の魅力ある農産物の魅力を発信を通じて、重点的な園芸品目の消費を喚起することで、持続的な農業経営基盤の強化を図ることを目的とする。	○全国ねぎサミット2018inにいがたの開催(平成30年11月3日~4日) ○地産地消推進店の認定・周知 ○SNSを活用した市産農産物の情報発信	/	○地産地消推進店の認定・周知 ○SNSを活用した市産農産物の情報発信	食と花のPR情報発信項目数(市報、プレスリリース、SNSを用いた発信)	50件	食と花のPR情報発信項目数:137回	A	80回	H30開始
37	文化創造推進課	水と土の芸術祭2018【再掲】	新潟の豊かな暮らし文化の磨き上げと発信により、本市の存在感を高めるとともに、水と土の文化創造都市を前進させるため、新潟開港150周年記念事業の主要事業として「水と土の芸術祭2018」を開催する。	水と土の芸術祭2018開催	/	参加者数	777,000人	812,387人	A	/	H30開始・廃止	

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成30年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかつ

施 策5 ガストロノミーツーリズムの構築											事業数:	5
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成30年度			令和元年度	開始/終了年度	
				平成30年度	令和元年度		目標	実績	評価	目標		
38	食と花の推進課	レストランバスなどを活用したコンテンツ開発	レストランバスを活用し、美しい自然、歴史的景観、伝統芸能などの地域資源と農業体験、酒蔵見学などのさまざまな体験メニューを組み合わせ、本市の食文化を一体的に体験できる新しい観光コンテンツを開発します。	複合的なツーリズムの開発	人材育成、コンテンツ開発、シビックプライドの醸成	レストランバス延べ乗車人数	774人	1,085人	A	380人		
39	広域観光課	魅力発信・誘客推進事業(着地型観光の充実)	本市への誘客につなげるため、本市の食、酒、農業、みなどまち文化等の本市の個性を生かした着地型旅行商品の企画・作成を支援します。	→	→	延べ宿泊者数	2,233千人泊	2,229千人泊	C	2,255千人泊		
40	広域観光課	観光客おもてなし態勢促進事業	本市への誘客につなげるため、観光客が快適に滞在・行動できるおもてなし態勢を整備します。	→	→	延べ宿泊者数	2,233千人泊	2,229千人泊	C	2,255千人泊	(1)新潟ストーリープロジェクト…H31年度終了 (2)着地型観光コンテンツ及び外国人対応の強化…継続	
41	観光政策課	魅力発信・誘客推進事業(観光コンテンツ、旅行商品等の情報発信)	食と旅行を嗜好するターゲットに向け、ガストロノミーツーリズムなど新潟の個性を生かした観光コンテンツや地理的優位性を効果的に情報発信し、誘客を促進します。	→	→	延べ宿泊者数	2,233千人泊	2,229千人泊	C	2,255千人泊		
42	産業政策課、ニューフードパレール特区課	米と酒を中心としたプロモーション事業	本市の食文化のPRを通じ、本市への誘客を図るとともに、市産農産物の国内外での新規需要を創出するため、米と酒を中心とした市産農産物・食文化のプロモーション映像作成やイベント開催によるプロモーションを展開します。	プロモーションツールとメディアの活用	→	新潟市産食材輸出促進アプローチ件数 <H30年度～> 新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	48件	52件	A	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)92以上 ※組織改編により指標変更		

施 策6 他都市への発信と都市間連携											事業数:	5
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成30年度			令和元年度	開始/終了年度	
				平成30年度	令和元年度		目標	実績	評価	目標		
43	観光政策課	特産品・土産品の振興	市産品などを全国に紹介・宣伝し、販路の拡大を図るとともに、誘客につなげるため、新潟市名産会などと連携し、全国の百貨店等で「観光と物産展」を開催し、本市の観光や食の魅力を発信します。	→	→	観光入込客数	21,598千人	19,549千人	C	22,200千人		
44	西区農政商工課	特産農産物のPR・情報発信	「くろさき茶豆」、「いもジェンヌ」、「新潟すいか」など特産農産物の知名度向上、消費拡大およびブランド化の推進を図るため、首都圏等を中心に県内外でのPR活動を実施します。	→	首都圏等を中心とした県内外での情報発信・PR	首都圏等向け活動実施回数	18回	21回	A	18回		
45	食と花の推進課	農産物販路拡大支援事業	農産物販路拡大アドバイザーを活用し、販路拡大を支援するほか、販路拡大に意欲的な生産者の発掘・育成を目的に、セミナーを開催します。また、さらなる販路拡大のため、産地間連携出荷の拡大や大都市での販促活動を実施します。	・販路拡大アドバイザーとの連携 ・県や関係者と連携した大都市でのPR ・近隣市町村と連携したPR	・販路拡大アドバイザーとの連携 ・県や関係者と連携した大都市でのPR	農産物販路拡大支援団体数 <H30年度～>新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	48件	52件(国内は37件)	B	国内40件		
46	食と花の推進課	豊かな食の郷土づくり研究会への参加	UNESCO食文化創造都市である山形県鶴岡市が主体となって実施する「豊かな食の郷土づくり研究会」へ参加し、食文化を切り口にした農林水産、商工観光等に取組む事例を関係自治体間で共有、食文化によるまちづくりの推進を目指します。	研究会設立に関する相談	発起自治体として研究会・カンファレンスへの参加	全国の食文化を切り口にした優良事例収集数	0回(研究会設立前のため)	0回	B	5回	H30開始	
47	文化創造推進課	水と土の芸術祭2018【再掲】	新潟の豊かな暮らし文化の磨き上げと発信により、本市の存在感を高めるとともに、水と土の文化創造都市を前進させるため、新潟開港150周年記念事業の主要事業として「水と土の芸術祭2018」を開催する。	水と土の芸術祭2018開催	/	参加者数	777,000人	812,387人	A	/	H30開始・廃止	

施 策7 国際交流の促進											事業数:	5
ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成30年度			令和元年度	開始/終了年度	
				平成30年度	令和元年度		目標	実績	評価	目標		
48	産業政策課	新潟の食輸出商談会	市産農産物および加工食品の輸出促進を目的に、企業や農業者などを対象に海外食品バイヤーとの商談会を国内外で開催します。	→	→	商談会参加企業	71社	67社	B	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)92以上 ※No.42, 48, 49, 50合計で		
49	産業政策課	海外消費者テストマーケティング	海外の消費者に好まれる食品や外食サービスなどの開発支援などを目的に、市内在住の外国籍市民をモニターとするテストマーケティング調査を実施します。	・広報宣伝の強化 ・利用企業の裾野拡大 ・海外消費モニターの登録制の推進	・広報宣伝の強化 ・利用企業の裾野拡大 ・海外消費モニターの登録制の推進	参加企業	10社	12社	A	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)92以上 ※No.42, 48, 49, 50合計で		
50	産業政策課	農産物輸出促進事業	小口流通システムの構築とインバウンドの拡大を図るため、海外市場の新規販路開拓や既存販路における販促活動などを実施することで、市産農産物の輸出促進を図ります。	→	県や関係団体と連携し、輸出品目・ロットの充実を図る	<H29年度～> 新潟市産食材輸出促進アプローチ件数 <H30年度～> 新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	48件	52件	A	海外への販路拡大支援企業・団体数(社・団体)92以上 ※組織改編により指標変更		
51	ニューフードパレール特区課	食の国際見本市「フードメッセinにいがた」	「世界に貢献できる都市ブランドの構築を図る」ことを目的に、本市の拠点性を高めていくために、本州日本海側最大の食の国際見本市「フードメッセinにいがた」を開催し、食関連事業者に対して商談の場を提供します。	・フードメッセinにいがた2018 ※数値目標:来場者数 9,100人	→	フードメッセ来場者数	来場者:10,300人	来場者:10,369人	B	来場者:10,600人		
52	ニューフードパレール特区課	食の国際シンポジウム「フードフォーカスinにいがた」	「世界に貢献できる都市ブランドの構築を図る」ことを目的に、グローバルな視点で食の課題について議論する食の国際シンポジウム「フードフォーカスinにいがた」を「食と健康フォーラム」と隔年で交互に開催します。	→	→	フードフォーカスinにいがたの開催	食と健康フォーラム開催 食の新潟国際賞の開催	食と健康フォーラム開催 食の新潟国際賞の開催	A	食と健康フォーラム開催		

食文化創造都市にいがた推進計画 関連事業進行管理表(平成30年度)

【評価凡例】 A:目標を上回った B:おおむね目標通り実施できた C:目標を達成できなかった D:事業を実施しなかつ

将来像3 食を通じて「産業」が「つながり」新たな魅力を創造するまち(施策8,9) 事業数: 17

施策8 新たな挑戦への支援 事業数: 12

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成30年度			令和元年度	開始/終了年度
				平成30年度	令和元年度		目標	実績	評価	目標	
53	産業政策課	食のマーケットイン支援事業(新潟IPC財団補助金)	食品製造業者などが抱える、売れる新商品の開発や、販路開拓といった課題を解決するため、専門家によるブラッシュアップや販路拡大計画の策定支援、補助金などのハンズオン支援を実施します。	→	→	支援事業者が設定した目標に対する達成割合(%)	80%以上	94%	A	90%以上	
54	産業政策課	食の商談促進事業(旧:食の域内取引支援事業)(新潟IPC財団補助金)	食品事業者の新販路開拓を支援するため、県内外のバイヤーを招聘し商談会を定期的に実施するほか、販売先が未確定の商品情報をバイヤーに提供し、商談の機会を探るニーズサーチを実施する。	→	→	個別商談会のマッチング及びニーズサーチの実施件数	150件以上	212件	A	222件以上	
55	農業活性化研究センター	6次産業化サポート事業	農業者の新事業展開を支援するため、相談やセミナーを実施するとともに、6次産業化・農工商連携に取り組む農業者などを対象に、加工機械・施設などの導入および販売拡大に対し助成します。また、6次産業化ネットワークの構築を進めます。	→	→	食品加工支援センターとの連携による農業者支援	10件	8件	C	8件	
56	食と花の推進課	食文化創造都市推進会議の運営支援	本市の魅力である「食文化」をさらに磨きあげ、市内外に広く発信し、交流人口の増加や地域産業の活性化を図るため、産学官民で設立した「新潟市食文化創造都市推進会議」の運営を支援します。	→	→	食文化創造都市推進プロジェクト申請事業数	20件	22件	B	13件	
57	北区産業振興課	「しるきーも」特産化事業	北区産さつまいも「しるきーも」の特産化を進めるため、生産振興、商品開発、販路拡大を一連の取り組みとして、農工商・産官学連携で実施します。	見直し・拡充	→	生産面積	4.0ha	4.1ha	A	3.5ha	
58	江南区産業振興課	梅の里産地活性化事業	江南区を代表する農産物である「藤五郎梅」の産地存続にかかわる価格の低迷、生産者の高齢化などの課題解決を図るため、商品開発、マーケティングなどを支援し、地域ブランドとしての価値の向上と産地の活性化を推進します。	→	梅加工品開発・PRの支援 栽培技術・課題解決の調査研究とりまとめ	1. 梅果実高品質化のための管理手法の確立 2. 梅加工品製品化数	1. 梅の生育環境と梅品質との関係性を調査する。 2. 2品目(累計7品目)	1. 生育環境と品質との関係性について、データ上明確な関係性は得られなかった。 2. 2品目(累計7品目)	B	1. 梅の糖度や香りから熟度との関係性を調査する。 2. 2品目(累計9品目)	
59	西区農政商工課	いもジェンヌの生産拡大及び商品開発に関する支援【再掲】	西区内の砂丘地で生産されるさつまいも「いもジェンヌ」の需要増大への対応やブランド化を目的に、生産拡大や商品開発の支援などをいもジェンヌ農工商連携協議会を中心に推進します。	→	→	いもジェンヌベスト取扱件数及び量	作付面積23.0ha	作付面積21.0ha	B	作付面積21.0ha	
60	ニューフードバレー特区課	国家戦略特区推進事業	大規模農業の改革拠点を目指すとともに、新潟ニューフードバレー構想の実現に向けた取り組みを加速するため、規制緩和などの効果を最大限活用し、農地の集積・集約、企業参入の拡大、農家レストラン設置支援など6次産業化の推進を図ります。	→	→	1. 特例農業法人立上数(累計) 2. 農家レストラン設置数(累計) 3. 農業ベンチャー企業の設立数(累計)	1. 9法人 2. 4店舗 3. 9法人	1. 9法人 2. 3店舗 3. 9法人	C	1. 9法人 2. 4店舗 3. 9法人	
61	農業活性化研究センター	農業活性化研究センターにおける研究(伝統野菜の維持・保存)【再掲】	生産現場における栽培技術上の課題解決に向け、野菜・花き・果樹の栽培実証試験などを実施し、その中でナスやカブなどの伝統野菜の維持・保存を行うとともに、活用に向けた調査・研究を進めます。	→	→	大学等との共同研究数	5件	5件	B	5件	
62	農業活性化研究センター	農産物高付加価値化推進事業【再掲】	農業者の所得向上や農業振興を目的に、付加価値の高い商品開発を進めるため、農産物に含まれる様々な機能性成分や有用形質に着目し、科学的根拠を裏付けとした調査研究を行います。	→	→	農産物高付加価値化プロジェクトの実施 ○農産物高付加価値化プロジェクトの実施 ○大麦プロジェクト支援(プロジェクトの進捗状況により見直し検討) ※柿葉プロジェクトはH29で区切り	6件	6件	B	4件	
63	ニューフードバレー特区課	新潟市と東日本旅客鉄道(株)新潟支社との食に係る地域活性化連携協定	東日本旅客鉄道(株)新潟支社と新潟市は相互に連携し、①農水産物、日本酒を含む新潟市の食文化等の振興、②食に関わる生産者等と連携した観光、③食に係る市内の地域活性化、に取り組む。	→	→	定期的な情報交換 ・プレスリリースの協力	プレスリリース協力回数	3回	C	3回	
64	食と花の推進課	農産物販路拡大支援事業【再掲】	農産物販路拡大アドバイザーを活用し、販路拡大を支援するほか、販路拡大に意欲的な生産者の発掘・育成を目的に、セミナーを開催します。また、さらなる販路拡大のため、産地間連携出荷の拡大や大都市での販促活動を実施します。	→	→	農産物販路拡大支援団体数 <H30年度～>新潟市産食材販路拡大アプローチ件数(件)	48件	52件(国内は37件)	B	国内40件	

施策9 さまざまな分野への食の活用 事業数: 5

ID	所属	事業名	概要(目的・内容)	工程		成果指標名	平成30年度			令和元年度	開始/終了年度
				平成30年度	令和元年度		目標	実績	評価	目標	
65	ニューフードバレー特区課	12次産業化推進事業	本市が有する豊富で多様な田園資源を子育て・教育・交流など生活に密着する分野に活かす12次産業化の推進を図るため、12次産業化の普及・啓発に向けた取り組みを実施します。	→	→	農業と他分野との連携事業は普及してきたことから、今後は、全庁的に普及・定着が図られるよう、各部署の状況を把握、情報発信に取り組んでいく。	73件	79件	A	80件	
66	スポーツ振興課	新潟シティマラソン	みなとまち新潟の魅力を含んだコースを駆け抜けるマラソン大会「新潟シティマラソン」において、地域の食材を使用したエイド食を提供し、参加者へ本市の食の魅力を発信します。	→	→	エントリー者数	12000人	12,005人	B	12,000人	
67	スポーツ振興課	新潟シティライド	市内を自転車で巡る「新潟シティライド」のエイドステーションにおいて、地域の食材を使用したエイド食を提供し、参加者へ本市の食の魅力を発信します。	事業の見直し・拡充を検討	→	エントリー者数	750人	774人	B	750人	
68	農林政策課	農・福連携事業	農業分野への就労を目指す障がい者の農業適性判断を手助けするとともに、作業能力の向上を図るため、アグリパークで農作業訓練を行う。	→	→	農作業訓練	45人	41人	C	40人	
69	スポーツ振興課	新潟ヒルクライム	岩室温泉をスタートし、弥彦山スカイラインを山頂まで駆け上がるヒルクライムを開催し、参加者に岩室温泉街のランチを提供することで本市の食の魅力を発信します。	事業の見直し・拡充を検討	→	エントリー者数	550人	584人	B	550人	